

# 教育委員会だより

**教育研究者による上ノ国調査  
青年の聞き取り等の  
補足調査が行われる**

**過去に二度の調査実施**

このほど、文部科学省の研究費による研究者(代表・日本臨床教育学会田中孝彦会長)の上ノ国調査がありました。

この調査は、今という時代を生きた子どもたちの「人生イメージ」を把握するために二〇〇〇年に一回目、十年後の二〇一〇年に二回目を実施されました。

今回は、その補足調査でした。道内は北大、道教育大さらに関東や関西の大学等の研究者が来町。上ノ国で生きる青年と子育て中の母親、教員、教育長に面談。

上ノ国に生まれ育ち、何を願い何を支えにしながら働いているのか、子育ての喜びと苦勞、地域の人々に支えられる学校のあり方、上ノ国町の教育執行方針等々、一人につき一時間半ほどの聞き取りがありました。

**十年前の調査と照合**

研究者は、聞き取り内容

を十年前の調査と照合し、児童生徒・青年・保護者・地域の人々・教師の意識がどのように変化しているのかを解き明かそうとしています。補足調査の今回は少数でしたが、これまでに延べ80人ほどの聞き取りが行われています。

**研究者の注目……**

研究者が注目しているのは、上ノ国には親密な地域の支え合いがあること、行政には子どもや教育への手厚い支援姿勢があることです。

また、保育所から高校までの学びと育ちを視野に入れた「学びの共同体」構想を持ち、授業研究や子ども理解に共同で取り組んでいることなどにも関心を寄せています。

事前打ち合わせの様子



子どもたちの幸福度が先進国中の最低辺にある日本で、当事者の声を聞き取る研究も注目されています。

## 上ノ国中学校で 3年生を送る会

3月13日に上ノ国中学校で3年生を送る会が開催されました。送る会では、各学年ごとに出し物をしました。1年生は劇、2年生は箱の中身を手探りで当てる「はてなボックス」、生徒会執行部ではビンゴや先生の昔の写真をスライドで流し、誰の写真かを当てるクイズなど楽しい企画が盛りだくさんとなりました。スライドづくりや先生達の写真集めの準備など、生徒一人ひとりが真剣に責任感を持っておこなった会に3年生も大変喜んでいました。

箱の中身は何でしょう



楽しい送る会になりました

## よってけクラブ 今年度の活動終了

「子どもたちに安心して活動できる居場所を提供し、様々な体験活動を通して、自分自身の良さを発見してもらおう」ことを目的に行っているよってけクラブの活動が、3月6日に終了しました。

5月9日に第一回目を行い、「紙ひこうき」、「絵本の読み聞かせ」、「体育館での運動や遊び」、「お菓子作り」、「万華鏡作り」などを行いました。毎回、参加児童が多く、実施回数は31回、延べ人数で五百六十名近くの児童が楽しく放課後の活動に参加していました。

今年度最終のよってけクラブは、「最強チーム」と「負けねチーム」に分かれてスカットボールを楽しみました。結果は「最強チーム」が34対28で勝利しました。終了後の反省会では、次年度へ向けた活動内容の希望などを聞き取りました。

今後は、ジョイ・じょうぐら、体育館での活動を多く取り入れ、過去の内容をもう一度見直し、様々な活動

を行っていきたいと考えています。



「なかなか、うまくいかないねエ」  
まが玉づくりに真剣にとりくむ小学生



2チームに分かれてスカットボール!!  
10点はむずかしい!!



たのしかったドッジボール

